

SSKA
**頸
損**
KEISON No.131

目 次

特 集	頸損の便利生活 インターネット環境の上手な利用生活	1
	「障害者差別解消法」見直し検討の動向	9
DPI 総会報告		11
自立生活運動の動向		12
新型コロナウイルス感染の予防対策		13
各支部状況報告		14
マイストーリー 「障がい者の旅行を考える会代表 佐藤孝浩」〈後半〉		16
東京コロニー 「アートビリティ」のご紹介		20
お役立ち情報		21
事務局からのお知らせ		22
報道・情報ピックアップ		24
京都 ALS 女性殺害事件に対する声明		26
財政支援のお願い (DPI 日本会議)		27
追悼 菊地敏明編集長を偲んで		28
全国頸髄損傷者連絡会＆関係団体年間予定		30
全国頸髄損傷者連絡会連絡先		31
編集部通信		32

特 集

頸損の便利生活

インターネット環境の上手な利用生活

現在のインターネット環境は十数年前から考えても目を見張る進化を遂げています。

パソコンはもとよりスマートフォンは今や生活にはなくてはならない存在となっています。頸損者にとってもパソコンやスマートフォンは必需品であり、インターネットの環境こそがそれらの道具を有効活用させる大きな役割を担っています。インターネットを駆使して、上肢に麻痺を有する頸損者でも創造的で独創的な表現を行うことが可能です。文章、プログラミング、イラストやマンガ、動画や画像や音楽の編集等を公開したり、コミュニケーションツール（SNS、テレビ電話、ゲーム）として活用する人もいます。もちろん仕事に活用している人も多く見受けられます。

では、実際に頸損者はどのようなインターネット環境を構築して、自身の生活に便利に取り入れているのでしょうか。インターネット環境をどのようにして便利に活用しているのでしょうか。

今回の特集は、インターネット環境とそれにまつわる機器や道具を便利に使いこなしている頸損者の生活を紹介します。

事例 1

兵庫支部・島本卓さん（C4・四肢完全麻痺）

イントロダクション

私が交通事故で、頸髄C4を損傷してから13年が経ちました。退院後すぐに両親と一緒に実家で生活を始め、9年目に思い切ってひとり暮らしを始めました。生活環境が変わったことで、物や機器の設置にとても苦労しました。そこで、せっかくのひとり暮らしをより良いものにするために「自分らしく」「快適」「エンジョイ」の3つのコンセプトを掲げ環境整備に取り組みました。

私が、日常生活を楽しみながら、安心して暮らすために取り入れた4つの工夫を紹介します。

工夫を紹介する前に、「Wi-Fi（無線LAN）」について簡単に説明します。「Wi-Fi」という言葉をよく耳にします。Wi-Fiには2.4GHz帯と5GHz帯の2種類の電波があります。2.4GHz帯は周波数が低く、電波が遠方まで届きやすいのがメリットです。また、壁や床などの障害物にも強く、隣の

部屋や2階の部屋に電波を届けることができます。ただ2.4GHz帯は、Wi-Fiだけでなく、家電やIHクッキングヒーター、Bluetoothなどの機器も利用する周波数帯です。お互いの機器から出ている電波が干渉し合うことで、Wi-Fiの電波が弱まります。5GHz帯のメリットは、Wi-Fi専用の電波です。そのため、ほかの家電が出す電波と干渉することがなく、安定的に通信を行うことができます。ただ5GHzは壁などの障害物があると弱まりやすい点はデメリットとなります。

工夫 1

1つ目の工夫は「Wi-Fiを活用する」ことです。私の生活には家電機器が溢れています。家電の数と同じ数だけリモコンもあります。自分で各リモコンを使いこなすことができればいいのですが、四肢麻痺の体ではそれが叶いません。実家で生活をしていた時には、家族やヘルパーにリモコンを操作してもらっていました。しかし、自分のタイミングで「テレビ」、「照明」、「エアコン」などを操作したいという思いがありました。そこで

環境制御装置(ECS)を取り入れることにしました。環境制御装置は機器本体が大きく、設置するためのスペースが必要であり、またセッティング時にも赤外線の飛びやすさを考えたり、呼気スイッチの角度や置き場所等の微調整が必要でしたが、私の生活には欠かせない便利な福祉機器でした。テレビ、エアコン、照明、電動カーテン、電動ベッドのギヤッジアップ操作が自分ひとりできることは、私にとっての自立だったからです(写真1)。



写真1 環境制御装置を使用している様子

ひし形のモニター（写真1右上部）や機器ごとに設置スペースが必要であり、家電によっては有線接続をしているので、家族やヘルパーがコードに引っかかる問題が出てきました。

これらの問題を解決するために、ひとり暮らしを始める時に新しい機器を探そうと決めました。機器を探す条件を、①スマートフォンで操作可能、②低価格、③登録のしやすさの3つにした結果、「eRemote RJ-3（株式会社リンクジャパン）」を選びました(写真2)。



写真2 おにぎりサイズ「eRemote RJ-3」

市販の機器として販売されており、価格も5000円台とリーズナブルで購入しやすい製品です。セットアップもとても簡単で、スマートフォンに専用アプリをダウンロードして使用します。赤外線リモコンで操作できる家電のみとなりますが、機器登録もすぐにできます(写真3)。私が現在登録している家電は、エアコン、テレビ、照明、サーキュレーター、スマートコンセントです。コンビニのおにぎりサイズなので、場所を取る心配もなくなりました。



写真3 スマートフォンで機器ON・OFF

「eRemote RJ-3」を取り入れたことで、環境制御装置で操作できる家電が、スマートフォンで操作可能となりました。ただし有線接続が必要な電動ベッドの操作はできませんでした。

Wi-Fi機能を使うことにより、外出先から遠隔操作で自宅のエアコンをつけることができます。もちろん照明も操作可能です。照明を消し忘れて外出した場合も対応できるので助かっています。

工夫2

2つ目の工夫は「ベッド上でパソコン操作をする」ことです。私は1日の大半を、電動車椅子上で過ごす生活をしています(写真4)。パソコン操作は、電動車椅子上で行うことを前提に必要な機器の高さや位置調整をしていました。そのパソコン操作をベッド上で行えるようにしました。

電動車椅子上でパソコン操作には、マウスとキーボードの固定と角度調整を行えるユニバーサルアームを使っていました。この方法は、病院に入院していた時の作業療法士が考案してくれました。マウスの代わりにトラックボールを使い、

キーボードは市販のものを使っていました(写真4)。カーソル操作はトラックボールのボールを頸で動かして行い、Clickは頬で押します。キーボードは、口に咥えた棒でキーを押して入力します。スマートフォンを操作するのも同じやり方です。



写真4 電動車いすに乗ったまま、パソコン操作

ベッド上のパソコン操作環境で問題となったのは、ギャッジアップをせずに操作する方法を考えることでした。ギャッジアップすると体が下がってしまい、操作が安定しません。仰臥位でのパソコン操作を考えた場合、①モニターの大きさと固定の仕方、②トラックボールは逆までの使用に適さない、③キーボードの大きさと固定の仕方に問題がありました。操作のしやすさも考えなければならぬので、かなり考えて設置する必要がありました。モニターの設置は、角度調整ができるテーブルをネット通販で購入し、自宅にあるノートパソコンで試してみました(写真5)。

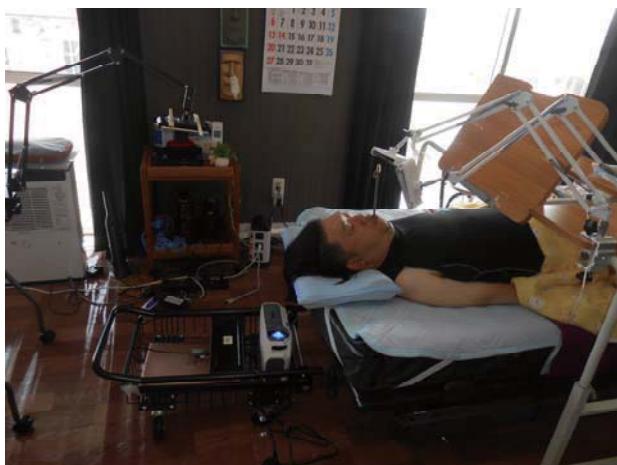


写真5 角度調整ができるテーブル

角度調整は問題がなかったのですが、モニター画面はとても小さく見えづらく、さらにキーボード入力は目、首への負担が大きいことが判明しました。最終的にはプラネタリウムから着想を得て、天井にプロジェクターで映像を写し出すことにしました(写真6)。手持ちの小型プロジェクター(スマートフォンサイズ)を試用してみました。



写真6 プラネタリウムのような感じ

小型プロジェクターはスペースをとらず、近くを写すのは問題ありませんが、遠くに写すと文字がぼやけてしまうことがわかりました。離れた距離でも鮮明に写し出すことができる高解像度の製品を探すことになりました。探してみると一万円くらいの安価でも高性能の製品がたくさんありました。一番解像度の高い製品に決めました。プロジェクターを天井に向けて投影するために、部屋の中にあった台車に縦向きに固定して使用することにしました(写真7)。



写真7 台車がこんな使い方に

最後にキーボード入力の方法について検討しました。離れた距離の映像を見ながら操作する必要があるため、小型で、弾力性の強いキーのものを選びました(写真 8)。Bluetooth で使える製品であれば、配線がないので顔の前もスッキリです。マウス操作も、キーボードに付いているタッチパッドができると思い、スマートフォン用の棒で試してみたのですが、反応が鈍くストレスがかかるため別の方法を考えることにしました。スマートフォンがキーボードの代わりにならないかと考えたのですが、アプリとスマートフォンの相性が悪く、文字入力が画面に反映されるまでにかなりのタイムラグがあるため使うのを断念しました。



写真8 スマートフォンと同じぐらいのサイズ

いろいろ探した結果、先輩頸損者のアドバイスを受け、「テンキーパッド」をマウス代わりに使うことにしました。数字入力のイメージが強いテンキーパッドがこんな使い方ができるなんて、考えてもみませんでした(図9)。

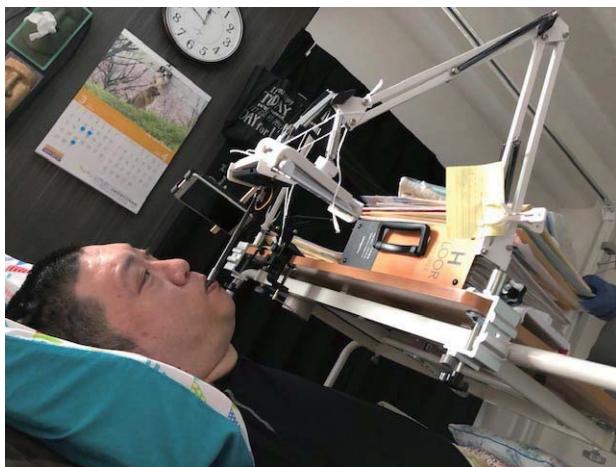


写真9 顔の前に、キーボードとテンキーパッド

いくつかの工夫をすることで、ベッド上でギャッジアップをせずに、パソコン操作ができる環境が整いました(写真 10)。



写真10 パソコンを快適に使いこなす

工夫3

3つ目の工夫は「防犯対策」です。誰もが生活をしていく上で、防犯対策は重要です。防犯意識は皆さんに持ってもらいたいです。私はバリアフリー住宅ではなく、一般の賃貸マンションで生活をしています。偶然ですが、既存のインターホンはベルが鳴れば、ハンズフリーで音声応答ができるものでした。ところがいざ生活が始まると、家具などで部屋がいっぱいになり、音声応答が使え無くなりました。密集した家具のせいで部屋に声が響かなくなったりすることが原因です。私は常時ヘルパーがいるわけではないので、サービスを受けていないときはインターホンが鳴っても対応できません。誰が来たのかもわからないため、不安に感じることが多かったです。インターホンごと買い換えることを考えましたが、購入費用がかさむため断念しました。そこで①費用が安い、②取り付けのみで使用できる、③スマートフォンで確認と通話ができるの3つを条件に代用できる機器を探すことにしました。ベビーカメラやペットカメラ(以下、ネットワークカメラ)を使えば音声対応ができ、訪問者の確認もできるので、ネットワークカメラを採用することにしました。比較的安価であったことも選んだ理由のひとつです。訪問者には既存のインターホンを鳴らしてもらい、私はスマートフォンのアプリで訪問者を確認し、ネットワークカメラで応答通話することにしました(写真 11)。



写真 11 ネットワークカメラを設置

スマートフォンでネットワークカメラを遠隔操作することができます。外出先からでも自宅に来られた訪問者を確認しながら対応ができます。とても便利で安心できます。SDカードを活用すれば、誰が訪問してきたかを帰宅後に確認することも可能です。

私が一人で外出をしていて帰宅が遅れたとき、自宅にサービス提供に訪問してきたヘルパーにネットワークカメラから「遅れる」と伝えることに活用しています。実は、室内にもネットワークカメラを設置しています(写真12)。外出した後に資料を忘れたことに気づき、ヘルパーに忘れ物を取りに帰ってもらうことがあります。その際に忘れ物が私の思っているものと間違いないか確認するコミュニケーション手段として活用しています。カメラに忘れ物をかざしてもらって直接確認することで間違いは防ぐことができます。



写真 12 部屋内にネットワークカメラを設置

工夫4

4つ目の工夫は「節約と災害の対策」です。災害時、私たちにとって一番厄介なのは「停電」で

す。人が生活する上で電気は不可欠です。数時間程度の停電でも、夏場では冷蔵庫の食材が全てダメになってしまいます。頸損は、エアコンが使えずに熱中症や低体温症に陥る危険があります。

2011年に発生した東日本大震災後に、家庭用蓄電池が注目されるようになりました。2012年から蓄電池の導入に補助金が交付され始め（現在この補助金は打ち切られています。代わりに一般社団法人環境共創イニシアチブが「災害時に活用可能な家庭用蓄電システム導入促進事業費補助金」の公募を行ったり、各自治体独自の補助金制度等があります。いずれも応募期間が定められているので申し込む際には確認が必要です。）、災害に対する不安から災害時の非常用電源として準備する家庭が増加しました。

私が現在住んでいるのは賃貸マンションの13階です。住みだしてからすぐに、持ち運びできる蓄電池を購入しました。現在は4つの蓄電池を導入しています。私の生活は電気で動く機器を多く使用しています。主に電動ベッドやエアーマット、CPAP（シーパップ）、移乗用介護リフト、電動車椅子が、使えなくなると困る機器です。移乗用介護リフトは、購入時にコンセントタイプのものを考えていましたが、停電した際のトラブルを考慮し、バッテリータイプの製品を購入しました。

日常生活では以下のものに蓄電池を活用しています(写真13)。

- ①スマートフォンやノートパソコンの充電
- ②バッテリー式掃除機の充電
- ③空気清浄機使用時の電源
- ④eRemote RJ-3 起動中の電源
- ⑤モバイルバッテリーの充電
- ⑥ネットワークカメラ起動中の電源
- ⑦サーチュレーター、扇風機使用時の電源



写真 13 蓄電池でノートパソコンを充電

蓄電池を取り入れてからは、毎月の電気代が3000～5000円も安くなりました。壁のコンセントがいっぱいだったとしても、蓄電池を持っていけば扇風機などを使用することができます。電力がなくなれば家庭用コンセントで充電が可能ですが、そこも節電を考え、私は太陽光パネルを活用して充電しています(写真14)。



写真14 太陽光パネルで蓄電池を充電中

蓄電池の価格は、決して安いものではありません。でも、電気代の節約を考えると簡単に元を取ることができます。そして楽しみながら電気の節約生活を送ることができます。もちろん震災があったとしても電気で慌てることはないでしょう。

現在、私が注目している家電は「音声で操作できるシーリングライト」です。最近では、家電をスマートフォンやスマートスピーカーで操作されている方が多いのではないでしょうか。ただ、スマートスピーカーはそれ自体に家電を操作するための設定を行う必要があります。そしてWi-Fiがあることが使用のための絶対条件になります。現在販売されている音声操作のシーリングライトは、Wi-Fi環境がなくても、直接照明機器を音声だけで操作することが可能です。難しい設定もなく、商品が届いて、天井に取り付ければすぐに使えます。とても便利な家電だと思います。

インターネットの普及により、欲しい情報はいつでも手に入る時代になりました。得た情報をいかに活用できるかで生活の豊かさが大きく違ってくると思います。機器は、高価であれば良いといわけではありません。安くても便利に使える機器はあります。それらを上手に、そして楽しく使えばもっともっと快適な生活になると思います。

事例2

兵庫支部・橘祐貴さん(C4・四肢完全麻痺)

イントロダクション

ICT機器の発達は日進月歩で、スマホやタブレットを誰もが所持している等、10年前には想像できなかった世の中になりました。技術の発達スピードがあまりにも速いのでついていけないです。それでも自分が使えそうなツールがあれば、とりあえず試してみたりしています。そこで私が現在活用している機器やソフトについて紹介したいと思います。

パソコン操作について

在宅生活に戻ってから10数年、パソコンの操作は音声認識ソフトを使用しています。病院のリハビリではマウススティックを使ってキーボード入力をしていましたが、当時は上の前歯が部分入れ歯で歯にかかる負担が大きく、別の操作方法を探していた時に音声入力ソフトを紹介され、使用するようになりました。初めは市販ソフトの「ドラゴンスピーチ」を使用していましたが、OSのバージョンが変わったら使用できなくなり、それからはWindows音声認識を使用しています。Windows音声認識はWindowsに標準搭載されているソフトです。Windows10の場合、「コントロールパネル」内の「コンピューターの簡単操作」を開くと使用することができます。マイクや自分の音声の設定を行なうと使用することができます。はじめのうちは認識精度が悪いので、認識精度を上げるトレーニングを行うとより使いやすくなると思います。音声認識ソフトを使用すればするほど認識精度はだんだん上がっていきます。音声で使用できる機能は多く、文章の入力やマウス操作、インターネットの閲覧やWordやExcelの操作等、様々なことができます。ただし、ソフトやアプリによっては相性が悪く使用できない場合もあります。また、使用するマイクの性能によって認識精度が左右されるので、ノイズを拾いにくい单一指向性の製品を使用しています。ヘッドセットタイプのものが理想ですが、いちいちセッティングするのが手間なので、現在はスタンドマイクを使用しています。



Windows 音声認識でパソコンを操作

Windows 音声認識の優れていると思うポイントは、「文章の修正が音声でできる」ということです。Google の音声入力に比べると認識精度は悪いですが、一度入力した文章を音声のみで修正することができる点は、上肢に障害のある人にとってはありがたいです。私の場合、機関誌の原稿作成や校正作業もこのソフトのみで行っています。ただ時々ソフトが固まってしまうことがあるので、代替の操作方法を考える必要があるなと感じています。昨年のリハ工学カンファレンスの会場で視線入力デバイスを試してみて、「これは使えるかもしれない」と感じたので導入を検討中です。



視線入力デバイスを体験

スマホの操作について

スマホやタブレットの登場は、重度障害者の生活を大きく変えた出来事の一つだったのではないかでしょうか。コンパクトなのにパソコンと同等の機能が使用でき、タッチパネルで操作も直感的にできます。知り合いにも電動車椅子上でスマホを使いこなしている人は多いです。私は自宅内ではパソコンを主に使用していますが、外出中に調

べ物をしたりするのに自分でスマホを操作したかったので、電動車椅子のジョイスティックでスマホを操作できるユニットをつけています。このユニットと画面を自動でスクロールするアプリを使って、メールや LINE の確認やインターネットの閲覧等を行っています。文字の入力はキーボード打ちなので少し時間がかかりますが、誰かに手伝ってもらわなくともスマホを操作できるようになりました。

スマートスピーカーの活用

Amazon Echo や Google home のようなスマートスピーカーの登場も私にとっては大きな出来事でした。声でニュースやラジオを聴いたり家電を操作したりできるので、上肢の不自由な頸髄損傷者にも使いやすいデバイスです。最近 Google home でも Google duo と連携させることによって音声通話ができるようになったので、万が一の際にも誰かと連絡が取れるようになりました。また環境制御装置の代わりにスマホやスマートスピーカーで赤外線リモコンの家電を操作できるスマートリモコンを導入しています。テレビやエアコン、照明、扇風機などの操作を声でできるようになりました。「痙性で呼気スイッチが外れて操作ができない」ということはなくなりました。製品の種類が多く、安価で購入できるので興味がある人はぜひ試してみてください。



Google home mini

今回は私が活用している ICT 機器について紹介しました。冒頭にも書きましたが、この分野の技術発展のスピードはとても速いので、新しい製品がどんどん登場しています。まずはいろいろなデバイスを試してみて、自分に合うものを見つけてみてはいかがでしょうか。

事例3

兵庫支部・宮野秀樹さん(C4・四肢完全麻痺)

イントロダクション

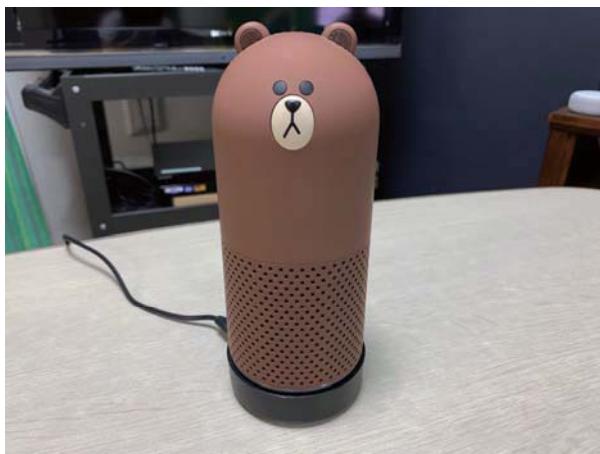
四肢麻痺となって28年が経ちます。最初に入院した病院でマウススティックによるパソコン操作を習得しましたが、体力の減退に伴いマウススティックでのパソコン操作が困難になり、現在は介助者によるパソコン操作で文書作成やWeb閲覧を行っています。

最近の私の機器操作環境は、スマートスピーカーが主力となっています。インターネットと組み合わせて便利に活用しているので、その一端をご紹介します。

Clova Friends

以前、本機関誌で「Clova WAVE」の使用状況をレポートしたことがあります、今は機種が変わり「Clova Friends」を導入しています。Friendsに変えたことにより、LINEメッセージやLINE通話ができるようになりました。

スマートフォンでLINEを使っている方は多いと思います。私も所有しているiPhoneで活用していますが、FriendsとWi-Fiを組み合わせて、音声操作でもメッセージ送信や通話を行っています。長文を送ることには適していませんが、短文であれば簡単に送信でき、相手から送られてきたメッセージも読み上げてくれます。介助者との簡単なやり取りに使っています。スタンプや絵文字は送ったり読み上げることはできませんが、とても便利です。



Clova Friends

一人で部屋にいるときでも、照明、エアコン、テレビなどの家電を音声で操作し、メッセージや通話がいつでもできるという安心感があるため、長時間を快適に過ごすことができます。

Amazon Echo

最近、「Amazon Echo」を導入しました。知人から玄関ドアの電子ロックを譲り受けたところ、スマートスピーカーと連動させて使えることが分かったので、それができるAmazon Echoを購入しました。電子ロックは「Qrio Lock」という製品で、本来はスマートフォンだけでも操作することができますが、Amazon Echoを使うことで音声操作での玄関の施錠・解錠ができます。「Qrio Hub」と合わせて使うことで、ネットワーク経由で外出先から施錠・解錠ができます。なんとなく便利なんですね。最近では、介助者に買い物に出かけてもらう際に「玄関のカギは自分でかけるよ」と言うことに快感を覚えています。

Amazon Echoは「Switch Bot」というスマートスイッチと組み合わせればリモコンで操作できる家電はそのほとんどが音声で操作できます。Wi-Fi経由で家の外からでも室内家電を操作できます。とにかく今の生活はスマートスピーカーによって便利で快適なものになりました。

ただ、皆さんのご期待通り、「Clova」を「Alexa」と呼んだり、その逆であったり、呼び名で混乱している感はあります。当然その中には介助者の名前も入ってくるので、もはや私は誰としゃべっているのか分からなくなるときがあります。

孤独に陥らない自信のある方は使ってみてはいかがでしょうか？



Amazon EchoとSwitch Bot

「障害者差別解消法」見直し検討の動向

副会長 八幡 孝雄

内閣府の障害者政策委員会（以下、政策委員会）から、「障害者差別解消法（以下、差別解消法）の施行3年後見直しに関する障害者政策委員会意見」が6月22日に出されました。

内閣府「障害者政策委員会」ホームページに、検討の経緯、意見書が公開されています

https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/seisaku_iinkai/index.html

法律改正に直接結びつく意見はありませんが、たった一文、次の見直しの方向性を見て、民間事業者の合理的配慮が義務化される改正につながって欲しいと、強く思っています。

「事業者による合理的配慮の適切な提供の確保」について

事業者による合理的配慮の提供については、建設的対話の促進や事例の共有、相談体制の充実等を図りつつ、事業者を含めた社会全体の取組を進めていくとともに障害者権利条約との一層の整合性の確保等を図る観点から、更に関係各方面の意見等を踏まえ、その義務化を検討すべきである。

法律の見直し検討は、「障害者権利条約（以下、権利条約）の理念尊重と整合性の確保」等に配慮しつつ、4つの論点「1. 差別の定義・概念について」、「2. 事業者による合理的配慮の提供について」、「3. 相談・紛争解決の体制整備について」、「4. 障害者差別解消支援地域協議会について」に絞って、見直しの方向性が出されています。

各論点の見直しの方向性は出されましたが、実効性のある差別解消法に改正しようという気持ちが感じられません。積極的に意見発信、問題提起した政策委員の皆さんのお意見が、十分反映された意見書になっているとは、とても思えません。

伝聞ですが、障害当事者委員、関係委員の皆さん、どれだけ発言しても、取りまとめ文書に書き込んでもらえず、政策委員が何人か集まって「障害当事者や家族の意見を反映した意見書」にしてくれるよう、事務局へ申し入れたとも聞いています。

国は、真剣に差別解消法改正を行い「障害に基づく差別を禁止して、平等な機会・チャンス・扱い（待遇）を保障する法律」にする気があるのか、とても疑問を持って状況を見ています。

障害者差別解消法は、障害者基本法（以下、基本法）「第4条 差別の禁止（基本原則）」を実現するための法律です。

基本法は日本の障害者施策の方向性を示す羅針盤であり、2011年（平成23）の改正では、権利条約の「障害の社会モデル」の考えを取り入れ、「障害を理由とする差別の禁止」の項を追加しました。ですが条文各所に「可能な限り」云々とあり、権利条約の理念である「あらゆる活動への機会を均等に保障」する法律とはなっていません。

以上のような基本法の下、差別解消法の改正議論が行われていたのです。早急に、権利条約の理念に則った、差別解消法、障害者関連法案を後押しする基本法の改正を行い、実効性のある改正検討が行われるべきと考えています。

政策委員会で検討された、差別解消法改正検討の4つの論点について、問題だと思っていることの一部を、簡単に書き出してみます。

■論点1「差別の定義・概念について」の問題点

権利条約は「障害に基づく差別」を定義し、直接差別のみならず、合理的配慮の不提供を含む、あらゆる差別を禁止することを締約国に求めています。

しかし差別解消法には「差別」の定義がありません。「不当な差別的取扱い」「合理的配慮の不提供」の定義もありません。何が差別であるかを明確に示さなければ、差別をなくしていくことはできませんから「差別」の定義を明確にすべきです。

直接差別、間接差別、関連差別、また女性障害者の複合差別についても規定すべきと思っています。基本法も、権利条約に則って改正する必要があります。

■論点2「事業者による合理的配慮の提供について」の問題点

現在、民間事業者による合理的配慮の提供は努力義務とされ、合理的配慮は障害者からの意思表明があった場合に対応しなければならないとされており、意思表明がなければ配慮義務がないような文言になっています。

意思表明が困難な人はたくさんいます「障害者がいる場合は、必要な合理的配慮をしなければならない」と規定すべきです。合理的配慮に伴う負担が過重という場合は、提供事業者が理由の立証責任を負う事を明示すべきです。また民間事業者による合理的配慮の提供の実効性を担保するため、公的な助成制度を創設する必要もあると考えます。

■論点3「相談・紛争解決の体制整備について」の問題点

国及び地方公共団体は相談に応じると定められているが、相談窓口が一本化されていないので、実効的な相談を期待できない状態です。相談窓口の具体的な権限は不明確で、市町村と都道府県の関係や役割も不明確。相談者のお話を聞くだけで、たらい回しにされた相談者もいたと聞いています。

差別に関する相談受付から、個別紛争の実効的な解決につなげる、確実な助言、調整、指導の権限を持つワンストップ機関を設置すべきです。

■論点4「障害者差別解消支援地域協議会について」の問題点

障害者差別解消支援地域協議会とは、障害者差別解消法施行に先行して、障害を取り巻く環境が異なる各地方公共団体等が、障害者差別解消を地域の特性を踏まえて主体的な取り組みを進める地域協議会だったそうです。

旗を振った内閣府は、差別解消法施行時には、他の地方公共団体等が地域協議会を組織する際のモデルとしての役割を担うことを期待したようですが、都道府県、政令指定都市の設置率は100パーセントでも、一般市町村の設置率は半数で、ほとんど機能していないようです。

障害者差別解消支援地域協議会の設置を促進すると共に、活性化を図る方策が必要です。

今回の差別解消法の改正見直しでは、実効性ある法改正を望めないと思います。今後も、多くの仲間と協力して根気強く働きかけを続けねばなりません。皆様、宜しくお願ひ致します。

DPI 総会報告

全国頸髄損傷者連絡会 副会長 村田 恵子

先日、5月30日(土)・31日(日)、第36回DPI日本会議全国総会が、新型コロナウィルス禍、発足以来初となるZoomによるオンライン総会が開催された。

例年は、総会だけでなく、基調報告・分科会・交流会と全国各地の仲間と集い、意見を交換する機会があったが、残念ながら総会のみの開催となった。

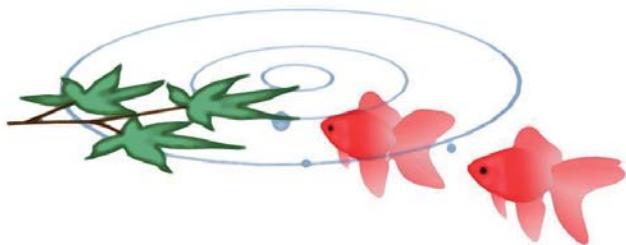
今年度は常任委員（任期2年（2020年—2022年）の改選年度で、今回初めて立候補された愛媛支部の井谷重人さん（CIL星空）と全国頸髄損傷者連絡会として八幡さんから引き継いだ村田が選出された。

総会では、①障害者権利条約の完全実施②地域生活③交通まちづくり④権利擁護⑤教育⑥雇用・労働・所得保障⑦障害女性⑧国際協力⑨尊厳生⑩優生保護と優生思想⑪欠格条項⑫防災⑬障害者文化芸術⑭次世代育成と各分野の2019年度活動報告および2020年度活動方針・予算が提起され審議し今年度DPI日本会議の活動計画が承認された。

その後、総会アピールが平野みどり議長から読み上げられて、SDGsとして進めるDPIビジョンの説明があり採択された。DPIビジョンでは、今後DPIビジョンタウンミーティングを実施、加盟団体と討議し、一体となって活動強化に取り組み、地域の課題を全国での取り組みに反映させ連携した運動を開することにより、全国各地の加盟団体との関係づくりをめざす。特に、来年度に見込まれる国連の建設的対話と総括所見（勧告）、障害者基本法の改正、差別解消法の見直しは、いよいよ最終局面を迎えており、全国頸髄損傷者連絡会としてもDPI日本会議と協力して障害者権利条約の完全実施に向けて取り組まなければならない。

さて、ご存知のとおり、昨年末から始まった新型コロナウィルスの感染は、私達障害当事者団体の活動にも大きな影響を及ぼしている。DPI日本会議においても、同じく影響を受けて今年度の常任委員会、11月21日(土)・22日(日)開催予定の政策討論集会はオンライン開催となった。また新型コロナウィルス禍での新たな取り組みとして、オンラインミニ講座を始めることになった。

まだまだ収束が見えない新型コロナウィルスだが、どんなに重い障害があっても尊厳をもって生きられる社会、「命の選別」に曝されることのない、「死」ではなく「生」を考える社会するために、社会に「NO」と伝え続けていかなければならない。



自立生活運動の動向

愛媛頸髄損傷者連絡会 会長 井谷 重人

私は愛媛県松山市で「CIL 星空」という自立生活センターを運営し、全国自立生活センター協議会(JIL)では常任委員を務めております。ここでは皆様に、JIL の活動をいくつか紹介できたらと思います。

・優生思想に関する様々なニュースについて

7月26日に、認定NPO法人 D P I 日本会議、「ともに生きる社会」を考える神奈川集会・実行委員会、全国自立生活センター協議会（JIL）の3団体より、『「相模原障害者殺傷事件」から4年、コロナ禍で迎える7.26声明』を出しました。

コロナ禍の中で、大西つねき氏の「命の選別」発言があり、ALS 嘱託殺人事件が起きました。相模原障害者殺傷事件から4年経ちましたが、社会は「誰もがいるのままでいられる」ものとはほど遠く、ことあるごとに優生思想の議論が浮上します。その中で、発言や事件が優生思想かどうか？という意見を目にしますが、そもそも人の命について議論するテーブルがあること自体おかしいことであり、「いつそこに親しい人や自分が乗せられるのかもしれない」と思うと、とても恐怖を感じます。

沈黙は同意と同じです。すべての優生思想にノーと言わなければならないし、障害者団体が力を合わせて声を上げていくべきだと思います。

・JIL 新型コロナウイルス対策本部の設置

世界中で猛威を奮っている新型コロナウイルス（COVID-19）は、感染の急激な広まりの危険性が続いています。JILは、どんな重度な障害があっても必要な支援を受けながら自分の住みたい地域で暮らすことを支えている自立生活センターの全国組織であり、加盟団体の多くが訪問系サービス事業を行っています。生活介護や就労支援といった通所系サービス事業を行っている団体も少なくありません。各センターが考え得る必要な対策を取ることが求められてきましたが、それも長期化してきています。

JILとしては、情報の冷静な分析と共有をすることを目的にJIL事務局内に対策本部を設立し、専用ホームページを作成し情報を提供しています。是非参考にしていただけたらと思います。

・ドキュメンタリー映画『インディペンデント リビング』の上映

障害当事者が運営する自立生活センターを舞台に、自らも介助者として働く田中悠輝監督が、家族の元や施設を離れ、自立生活を希望する人たちの姿を3年にわたり撮影し、日本の自立生活運動の現在と未来を描き出す映画を完成させました。

2020年1月11日に大阪の第七藝術劇場にて上映が開始され、初日は立ち見が出るほど満席。その後も大盛況でロングランされました。そこから全国の映画館で上映されていくという中…コロナの影響で上映が一時ストップてしまいました。しかしその間、コロナ対策としてインターネット配信を行い、話題になるという場面もありました。現在は除々に上映が始まりネット配信も期間を延長して行われています。

自立生活センターが、人の生き方を変える「自立支援」をどのような思いで行っているか知ってもらえる素晴らしい作品です。介助派遣を使ったただの一人暮らしではなく、どうして「自立生活」なのか、観る人の立場から考えていただけると幸いです。

全国自立生活センター協議会(JIL)ホームページ <http://www.j-il.jp/>

新型コロナウイルス感染の予防対策

新型コロナウイルス騒動が収束せず、肺機能に問題の多い私たち頸髄損傷者は、ウイルス感染の不安から解放されず、長期の自粛生活にストレスを抱えている方は多いと思います。

国のウイルス対策は迷走。ワクチンが一日も早く開発されることを期待しつつ、私たち一人ひとりが、ウイルス感染を防ぐためにできることを実践して、自己防衛するしかコロナ禍を乗り切る方法はないようです。医療・介護システムが崩壊しないことを願うばかりです。

またトリアージ（重症度によって治療の順番を決める）については、障害や高齢等を理由とした命の選別がなされないように、DPI 日本会議等では強く申し入れを行っています。

■新型コロナウイルス感染を防ぐ「新しい生活様式」の実践

◎飛沫感染や接触感染防止の3つの基本

①他の人との、身体的距離の確保、②マスク着用、③手洗い（手指消毒）、

◎日常生活では上記に加えて

④三密回避（密集、密接、密閉）、⑤換気、⑥体温・健康チェック、等が効果的

◎働き方の新スタイルとして、⑦会議のオンライン活用、等

◎熱中症対策としては、周囲と距離を確保できる時はマスクを外して「エアコンのある涼しい場所等での休息」「水分攝取」。体調の悪い時は無理せず自宅で静養。



流水と石けんでの手洗いができる時は、手指消毒用アルコールも同様に有効

■感染が疑われる時は、都道府県の「帰国者・接触者相談センター」に相談を

症状には個人差がありますので、感染を疑う場合はすぐに相談して下さい。

◎息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合

◎重症化しやすい方（※）で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

（※）高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）等の基礎疾患がある方や

透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方

■手に触れる、車椅子、福祉用具・機器、携帯電話等は清潔にすると共に、人工呼吸器などの呼吸補助装置の衛生管理にも十分気を付けて生活して下さい。

（文責：本部事務局）

各支部状況報告

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、支部活動が行えていないのが現状だと思います。その中でも新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、活動を行っている支部から現状報告をいただきました。

○京都支部からの報告

京都では、来る 2021 年全国大会に向けての全国脊髄損傷者連合会との実行委員会を、Zoom を利用して開催しています。2021 年 6 月 5 日・6 日の開催と宿泊ホテルの手配、シンポジウム等、企画立案が始まり、解体新書の報告、再生医療、両団体でのトークセッション、京都の伝統芸能である芸・舞妓による京舞や茶道の立札式お点前の披露など、初の試みに相応しい大会となるよう準備を進めています。

また最近の活動として、当会ホームページを通じて居宅介護支援とリハビリについて 70 代男性から受けた相談に対応しました。居宅介護支援は、地域事業所の協力を得て、担当ケアマネと区役所担当課長に迅速な支給決定を交渉しました。リハビリは、大阪頸髄損傷者連絡会の島本事務局長を通じて、大阪急性期・総合医療センター地域医療連携室へ相談したところセンターへの入院が決まりました。そこでリハビリを受けた結果、気管切開からの離脱、胃瘻による栄養摂取から経口での摂取に変わり、一日中ベッド上で過ごす生活から車椅子に数時間乗車できるまでに回復されました。

今回の相談により地域医療側の潜在的 ADL への認識不足を痛感し、京都における地域リハビリ医療センター設立の必要性を強く感じました。また、全国頸髄損傷者連絡会支部間の連携による地域生活実現の可能性を再認識しました。

コロナ禍により 3 密を避けるため大勢が集まる行事は控えながらも、できる限りのセルフヘルプを行っておりまます。

○大阪支部からの報告

大阪支部では、3 月 8 日に機関誌の発行と役員会に集まり、同時に機関誌の発送作業もおこないました。機関誌の発送作業は毎回 10 名程のボランティアの協力を得て発送していましたが、新型コロナの関連で数名の協力になる予想があり頸損だより春号の発行にしぼり事務局通信の発行は中止としました。予想通り 5 名の精鋭ボランティアと発送準備を終えることができました。このコロナ禍では自分たちの活動制限と併せてボランティアの協力依頼も「感染しない、感染させない」ことへの取り組みが大切になりました。頸損だより夏号の発行に関してはさらに感染が拡大し始めたため、印刷依頼をしている NPO 法人に発送準備のお願いをして 1 ヶ月遅れでしたが発行することができました。

行事は 3 月末の春レクを中止にして以降、新年度の行事は全て実施できていません。この間リモートでのセミナーやシンポジウムの案内を参考に、外出を控えていても出来る行事を模索中です。役員会は 4~6 月はオンラインで開催、7 月はソーシャルディスタンスを取りつつ頸損事務所内 (CIL あるる) とオンラインを併用しておこないました。4 月 26 日に予定していた支部総会は一旦延期とし、総会の議案書を作成し書面表決の方法を役員会と ML で特例として承認をもらい実施し 7 月末に表決されました。今後、会則を改定して対応できるようにする必要性を感じています。セルフヘルプ活動として病院でおこなってきたピアサポートは、6 月に Web 会議用の Zoom を使ってオンラインサポートを、兵庫支部のサポートメンバーと協力して実施しました。京都支部の報告にあったリハビリ入院中の方も参加

して下さり、間近に顔を見ながら話ができることが良かったと本人やご家族から感想をいただきました。今後セルフヘルプ活動のツールのひとつとして活用していくように感じました。頸損呼吸器メンバー情報交換交流会も Skype を使い情報交換を続けています。オンラインを活用することで兵庫、大阪のメンバーに加えて新潟からの参加もあり距離を超えての交流も進んでいます。そんな中、コロナ禍や豪雨災害時に会員への安否確認が遅くなり「いつもみんなによりそえるように」と願っていた赤尾さんの遺志に沿えず反省点も見つめなおすことができました。

どんな障壁があっても乗り越えようと一歩踏み出すのが頸損連、転んでもただでは起きないぞ～！

○兵庫支部からの報告

兵庫支部は、新型コロナウイルスの感染が広まり始めた3月から役員会をオンラインで行っており、4月の新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されて以降も、そのままオンラインで役員会を開催しています。計画していた今年度の行事は、現時点までのものはほぼ中止としました。ただ、4月12日(日)に開催を予定していた支部総会はひとまず延期とし、ウイルス感染の収束を見極めて開催する時期を探ることにしました。しかし、ウイルス感染の収束の見通しが立たないため、5月役員会で6月13日(土)にWeb会議サービスのZoomを活用したオンライン総会を開催することを諮り、開催を決定して準備を進めました。

会の規約ではオンライン総会の開催については定められてはいませんでしたが、特例開催として会員に事情説明を含めた開催案内を出し総会を開催しました。初めての試みでしたが特に問題なくオンライン総会は終了しました。普段は遠方に住んでいるため参加しづらい会員も、今回のオンライン総会には参加してくれたので、結果的には充実した総会となりました。

その他に、兵庫や大阪支部の人工呼吸器ユーザーが中心となって行っている情報交換勉強会は、集まることは避けて、個別にオンラインミーティングを行い情報交換しています。いつもであれば関西圏の人工呼吸器ユーザーしか来ることができませんが、今はオンラインの特性を活かして県外の人工呼吸器ユーザーを変えた情報交換を行っています。また、大阪支部が行っている病院でのピアサポートに兵庫のメンバーも応援を行っているのですが、今は対面形式でのピアサポートは避け、サポート者がオンラインで入院患者に対するピアサポートを行っています。オンラインでのミーティングや相談は、いろいろな可能性を示していると考えています。兵庫では県外者に対しても情報交換や相談に応じますので、よかつたらご活用ください。



福島県で「障害者の旅行のために」奮闘中の佐藤孝浩さん（福島頸損友の会）の

第二の人生を、2020年2月、福島民友新聞社「マイストーリー」にて12回連載紹介

(前半) 第1回～第6回は「頸損130号」に掲載

“障がい者の旅行を考える会代表 佐藤 孝浩”〈後半〉

第7回 自分も人の力になれる

やるからには絶対後悔したくない。

旅行の楽しさを知ってもらいたい。そう思って障がい者の旅行を考える会を設立したがツアーを何回続けられるかは分らない。

だから、最初から海外に行こうと決め、考える会の船出となる旅行先に米ハワイを選んだ。

出発したのは2000（平成12）年2月。僕や、考える会と一緒に設立した介助ボランティアのつてを頼って参加者を募り、ボランティアを含め18人が集まった。

でもハワイに着くまでが大変だった。

複数の国内旅行会社にツアーを組んでもらえないか打診したが、旅行の実績がなかったからか、応じてくれる会社は一つもなかった。



考える会初めての旅行に出かけた時の僕（2列目右から2人目）。何かと気が休まらなかつたが、みんなに感謝されてツアーを続けていく決意が固まつた。

仕方なく1社に航空券とホテルの手配だけをお願いして、バリアフリーツアーを扱っている現地の旅行代理店に電話した。

つたない英語でツアーをしたい旨を伝えると、日本語を話せる人が電話口に。偶然にも社長の奥さんが日本人。僕の話に理解を示し旅程をサポー

トしてくれて、本当に助かった。

出発直前の成田空港でも問題は起きた。

事前に参加者の障害の具合や車いすのサイズから、電動車いすのバッテリーの種類まで細かなデータを航空会社に送ったはずだった。しかし受付の職員は全く把握していなかった。ハワイにつくまでは添乗員もいないので、僕が必死に口頭で説明した。長い時間空港に足止めされてようやく出発できた。

ツアーは4泊6日。僕自身も初めてのハワイ旅行で楽しみだった。でもトラブルがないか目を配らないといけない。どこを訪ねても、これまでにない緊張感をぬぐえなかつた。

これまでと何より違つたのは、参加者に感謝されたこと。「ありがとう」「また連れて行ってね」。みんなが言ってくれた。

僕は障害を負つてから、人の世話になることはあっても、役に立てることはないと思っていた。だからみんなに喜んでもらい、うれしくてたまらなかつた。この時、決意が固まつた。もっと多くの人に喜んでもらえるように活動を続ける、と。

第8回 思いがけない落とし穴

僕たちの活動がこんなにも大きな反響を呼ぶとは思つてもいなかつた。

障がい者の旅行を考える会で初めてツアーを実施した半年後、再びハワイ旅行を企画した。その様子が新聞に取り上げられた。

それをきっかけに、ツアー参加を希望する人たちから問い合わせが相次いだ。「旅行好きだったけど車いす生活になり諦めていた」「高齢で一般的のツアーに付いていけない。参加できるのか」。その数は想像以上。家の電話が一日中鳴りやまなかつたほどだつた。

「うちでツアーを組ませてもらえませんか」

参加希望だけではなく、旅行会社からも連絡がきた。その人の母親も障害者で、記事を見て考える会に興味を持ってくれたそうだ。

自分で旅行の手配をするのは相当な負担。僕は喜んでお願いした。するとあれよあれよという間に3回目の旅行が決まり、アメリカ西海岸へ行くことになった。

すべて順調で調子に乗っていたのだと思う。思わぬ落とし穴があった。



現地の空港に着くと、悪寒がした。「せっかく来たのだから」と観光地を回った。でも視界がゆがみ始め、気持ち悪くて食事もできない。ホテルに着いて熱を測ったら39.7度。翌日、病院に行くと、ぼうこう炎と診断された。僕だけ先に帰国するはめになり、6泊8日の予定が2泊4日の「弾丸ツアー」となった。

僕は自分の意志で排尿することができないので管を付けている。それが飛行機に乗っているときに折れ曲がり、尿が流れなくなったのが原因。いつもは折れていないかどうかを確認しているのに、この時は忘れていた。

国見町の主治医に国際電話をすると「なぜ海外に行くことを教えなかった」と怒られた。海外旅行の時は毎回伝え、念のために抗生物質などを処方してもらうが「海外も慣れてきたし大丈夫だろ

う」と知らせなかつた。

苦い経験はいい教訓だ。参加者には失敗例として話し、万全の準備をお願いする。3回目で何もなかつたら、もっと大きなトラブルが起きたかもしれない。

第9回 一人一人に旅のカルテ

僕たちの旅に欠かせないものがある。

それは「旅のカルテ」。

障がい者の旅行を考える会のツアーは、障害のある人たちが旅を楽しむためにある。でも、参加者の障害は、半身不随など体を動かすのが不自由だったり、視覚や聴覚に障害があつたりする。知的障害や精神障害などもあって多岐にわたる。

障害のタイプも程度も一人一人違う参加者が一緒にになって出掛けていっても、全ての人が快適に旅行を楽しめるように、体の状態などを記録したリストを1人ずつ準備する。

もちろん旅行の行程は、旅行会社に依頼して組んでもらう。ただ、行程の中で参加者にとって何が障壁になるのかは、障害があるその人にしか分からないことが多い。



考える会の旅行は車椅子に乗ったまま乗降車できる
リフト付きバスで巡る。行程を細かく下調べして万全
の状態で臨む。

旅の障壁を取り除いたり、避けられるように調整するのが僕の役割だ。まず聞き取り調査。参加者一人一人に連絡し、障害の状態を詳しく尋ねる。長いと1人1時間以上かかる。

その結果と旅行の内容を照会し、障壁になりそ

うなものを探す。旅先での移動ルートや休憩のタイミングだけでなく、もっと細かい下調べも必要になる。

例えば、ホテルのベッドの高さ。下半身は不自由だが上半身は動く人が利用する場合、車いすから乗り移りやすいよう低くしてもらう。逆にリュマチなどで膝を曲げにくい人なら高くしてもらい、ベッドに倒れこみやすくする。ほかにも例を挙げればきりがない。

それでも考える会の旅行代金はほかのバリアフリーツアーに比べるとお手ごろだと思う。代金は参加者の費用に、毎回2人程度加わる介助ボランティアの費用を参加人数で割った額を上乗せしたもの。もちろん僕も払う。

そんな大変な準備をしてまで「なぜボランティアで続けるのか」と聞かれる。その答えはみんなに気軽に参加してほしいからだ。考える会を設立したのは、障害が重くなるほど料金が高くなるツアーの仕組みに疑問を抱いたからだ。ボランティア運営の方針はこれからも変えることはない。

第10回 多くの善意に支えられ

僕たちの活動は、介助ボランティアの存在なくしては成り立たない。

障がい者の旅行を考える会のツアーには、看護師や介護士の資格を持つ人にボランティアで参加してもらっている。年1回ほど募集すると「旅行が好き」「自分の経験を生かしたい」という人が応募してくれる。

ボランティアの旅費はツアーに参加する障害者が負担する。でも、それ以上の労力を彼らは旅行中に注いでくれる。

起床と就寝の介助があるので誰よりも早く起きて、寝るのは最後。飛行機を使う場合は参加者がトイレに行くのを手伝ったり、床ずれやエコノミークラス症候群にならないよう参加者の体を3時間に1回動かしたりする。

ほかに目配せしてもらうことも多く、気が休まらない体力勝負の活動だ。ボランティア一人一人に感謝の気持ちは尽きない。

その中でも考える会の活動を語る上で欠かせない人たちがいる。

まず紹介したいのが、長くボランティアを務めてくれている南相馬市の渋谷のり子さん(62)と、会津若松市の薄健次郎さん(70)。



長く介助ボランティアとして参加してくれている薄^勺、渋谷さん^勺。2人のように苦労を惜しまず活動してくれるボランティアが考える会には欠かせない。

元看護師の渋谷さんは「東日本大震災でいろいろな方から受けた恩を何かしらの形で返したい」とボランティアに応募してくれた。

介護施設を経営する薄さんは2003(平成15)年から活動に参加している。福祉用具の扱いに詳しく、旅先で何度も助けられた。

そして僕と一緒に考える会を設立した北原君子さん(故人)。1998年に別団体の障害者向け旅行で知り合い、家族ぐるみの付き合いをした。僕を「福島の兄ちゃん」と呼んでくれた母親のような存在だ。

僕が考える会を設立したいと伝えた時には「私が介助をやるから、兄ちゃんは企画とか募集をやりな」と背中を押してくれた。

北原さんは2012年5月にがんで亡くなる間際、病床を尋ねた僕の手を握り、涙ながらに言ってくれた。「これからもみんなのために頑張りなよ」。その言葉は今でも僕の心の支えになっている。

第11回 心のバリアフリー実感

「バリアフリー」という言葉が今、広く社会に

認知されるようになった。

僕は旅行を続けてきて、バリアフリーには「ハード」と「ソフト」の二つの側面があることを肌で感じている。それはスロープやエレベーターといった設備の面と、人の心だ。

心のバリアフリーでは、とても印象深い出来事がある。2003（平成15）年に障がい者の旅行を考える会の関西旅行で、京都市の清水寺を訪ねた時のこと。

車いすの参加者が僕を含めて8人。参加者の強い要望で訪問したが、清水寺は周辺に急な坂が多く、行くのも大変。有名な「清水の舞台」に着いても二の足を踏んだ。舞台に降りるには20センチほどの段差が二段あったからだ。

「手伝えることがありますか」

僕たちが「どうしたものか」と思案していると、1人の男子高校生が声を掛けてくれた。千葉県から来た修学旅行生だった。

言葉に甘えて引率の先生にお願いをすると、10人ほどが集まってきて、数人がかりで一台一台、舞台に降ろしてくれた。僕たちが景色を楽しむ時間も待っていて、戻る時にも同じように通路に上げてくれた。



高校生たちに段差の上り下りを手伝ってもらって清水の舞台を見た僕（中央）。彼らのような心のバリアフリーを感じると感謝でいっぱいになる。

近年はどこに行っても、彼らのように介助を申し出してくれる人が増えているように感じる。本当にありがたいことだ。

ハード面も、考える会が発足した頃に比べれば

だいぶ整ってきたが、不便を感じることは少なくない。例えば新幹線。車いす用は1両に1席。考える会のように障害者が複数いると、車椅子をたたんで座席に座らざるを得ない。飛行機も航空会社ごとに対応が異なる。

今年は東京パラリンピックが開かれ、海外から多くの障害者が訪日するだろう。開催が決まってからバリアフリー化が進んだと感じていて、今後へのいい影響を期待している。

障害者だから特別に扱ってほしいと思っているわけではない。むしろ特別扱いされたくない。誰もが当たり前のように、何事にも自由に参加できるような環境が整っていくことを願っている。

第12回 出会いが僕を強くした

「旅の仲間がほしい」

障がい者の旅行を考える会の活動を続けてくることができたのは、そんな思いがあったからかもしれない。

出会いは財産だと心の底から思う。そう思えるのは人との出会いが僕という人間を強くしてくれたからだ。

僕は24歳で事故に遭ってからの日々を「第二の人生」だと思っている。それまでの人生が一変し、肉体的にも精神的にもどん底からスタートした。一人では何もできず、生きる希望すら失っていた。そんな僕を病院のスタッフや入院仲間が温かく支えてくれた。

周囲の手を借りながら少しづつ自分で前に進み始めると、旅行という自分が生きる道を見つけることができた。旅行仲間ができて、考える会を設立すると、また新たな人たちと出会い、協力してくれる人が増えていった。

妻とも考える会の活動を通じて出会った。妻が介助ボランティアに応募してくれたのがきっかけで2007（平成19）年結婚し、同時に小学生の息子と娘もできた。

結婚式は考える会のハワイ旅行の自由時間に挙げた。参加者がみんな参列してくれて、にぎやかな式になったのがいい思い出だ。

今や息子は大学院2年、娘も大学3年になった。父親になり「社会の先輩として人の役に立つ大切さを示したい」と生きている。

障害を負ったからこそ、縁の大切さを知ることもできた。地元の友人や近所の人たちが気軽に声を掛けてくれるありがたさに気付いた。健常者だった時よりも深く、周囲の人と付き合うことができているように感じる。

仲間の輪は今も広がり続けている。体力が続く限り、協力してくれる人がいる限り、考える会の活動を続けていきたい。そして何より、もっとたくさんの人たちと旅をする喜びを分かち合いたい。

これからももっと多くの人と出会い、仲間たちと一緒に人生という旅路を楽しもうと思う。(完)



僕は今、次回の旅行の準備を進めている。これからも体力が続く限り、協力してくれる人がいる限り、考える会の活動を続けていきたい。

(聞き手 国井貴宏)
佐藤氏本人の了解を得て掲載

東京コロニー「アートビリティ」のご紹介

概要

障害者アーティストの才能を活かすために、1986年『障害者アートバンク』として設立され、2001年に『アートビリティ』と名称変更を行い、現在に至っています。

障害者芸術運動とは異なり、障害者アーティストの持つ才能を活用することで、所得面を中心に社会参加を促そうとした事業です。約200名の作家による約5,500点の作品がストックされた堂々たる芸術ライブラリーに成長しました。

設立当時から「才能に障害はない」を合言葉に、作品を評価することを心がけてきました。

システム

アートビリティは、全国から応募された作品を「審査→合格した作品のみをデータの形で保存→企業や団体などに有料で貸出→使用料の一部を作家へ還元」するというシステムです。(60%が作家へ支払われ、40%がアートビリティの運営費に充てられています。)

今ではクライアントから信頼されるクオリティの高さとなり、年間約400点以上の作品が、冊子の表紙・リーフレット・ポスター・カレンダー等、さまざまなメディアを通じて世の中にデビューしています。



アートビリティへの作品の応募はこちら

<https://www.artbility.com/>

〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7

社会福祉法人東京コロニー アートビリティ

TEL:03-5988-7155/FAX:03-3953-9461

お役立ち！？

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

10年ぶりくらいに、パソコンを買い替えました。それに合わせて、色々なテーブルを調べてみました。

「電動昇降」「角度調整機能」等のついたテーブルがいくつかありましたので、一部ご紹介します。新たにテーブルが必要な時、買い替えの時等、参考にしていただければと思います。

◎Bauhütte（バウヒュッテ）

昇降式 スタンディングデスク BHD-1000H



本体サイズ:幅100×奥行き45×高さ75.5cm

天板の高さ:約75.5~117.5cm

本体重量:約16.3kg

価格:¥27,097(Amazon調べ)

発売元:バウヒュッテ

<https://www.bauhutte.jp/>

サイズ:幅120×奥行き66×高さ73cm

素材:合成樹脂化粧繊維版

重量:約27.4kg

価格:30,454円(税込)

発売元:ニトリ

<https://www.nitori-net.jp/ec/product/6201500s/>

◎FLEXISPOT（フレキシスポット）

電動式スタンディングデスク 昇降デスク



◎ニトリ

昇降デスク(マーフィー2 120 DBR)

サイズ(約) ※単位:cm



天板サイズ:120*60cm

昇降範囲:71~121cm

耐荷重:70kg

使用方法:ボタンを押して高さを調整してください。

価格:¥34,000(Amazon調べ)

発売元:フレキシスポット

<https://www.amazon.co.jp/stores/FLEXISPOT/page/9>

https://www.amazon.co.jp/dp/B076A76446?ref_=ast_bln

色々なPCデスクがあります。昔に比べると価格もお手頃になってきました。自分にあったものを是非！

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○全国総会開催について

年次総会の開催について、開催時期を見計らってお知らせすることにしておりましたが、10月初旬に開催することで準備調整に入りましたことをお伝え申し上げます。新型コロナウイルスの影響により5月に予定されていた全国総会・岐阜大会が中止となり、総会開催も新型コロナウイルス感染の収束を待って行う予定でした。2ヶ月間ウイルスの感染状況を見守っていましたが、現状では収束する見通しが立たず、更なる感染増加傾向にあります。しかし、会員で構成される組織である以上、必ず年次総会を開催しなければなりません。ウイルス感染の収束する気配がない中で開催すべきか迷いましたが、これ以上先延ばしすることは会運営に支障をきたすと判断し、準備を進めることを決定しました。

開催はオンラインシステムを使った方法になります。後日案内を送付しますが、通常とは違う形での開催形式となるため、準備の期間が必要となります。会員の皆様には今しばらくお待たせすることになりますが、どうかご理解くださいますようよろしくお願い申し上げます。

○頸損解体新書2020進捗状況

現在、頸損解体新書2020実行委員会の中でアンケート分析チームと報告書作成チームに分かれて作業しております。皆様からいただいたアンケートデータは、集計、データ等入力が終わり、単純集計からデータ分析を行い、結果をまとめる段階に入っています。今後は、以前に作成した解体新書との比較や分析をし、頸髄損傷者が自立した生活、社会参加を行う上での現状の課題を把握する作業を行います。また、現時点できている単純集計をもとに「中間報告会」を行う準備も進めております。

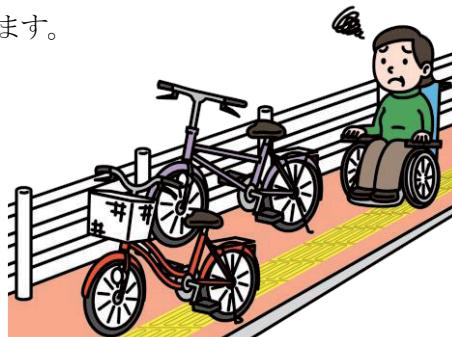
今回の調査によって得られたデータをまとめて報告書にし、アンケートで浮き彫りとなった課題解決や、皆様に頸髄損傷者の実態を知っていただき、誰もが自立した生活が出来る社会にするために活動を行います。

令和3年3月には「頸損解体新書2020(仮題)」として発行する予定です。

- ・中間報告会 9月中旬
- ・分析結果報告 11月
- ・報告書完成 2月

上記のスケジュールで頸損解体新書2020の作成を進めています。

皆様のお手元に届くまでもうしばらくお待ちください。



○頸損解体新書 2020・中間報告会開催のお知らせ

現在、皆様にご協力いただいた「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」のアンケートデータをもとに「頸損解体新書 2020」報告書を作成中です。アンケートの集計が終わり、単純集計を示せる段階まで来ております。そこで頸損解体新書の趣旨説明や意義、現段階で見えてきている課題などを報告するための「中間報告会」を下記案内チラシの内容で開催いたします。オンラインでの参加形式ですので、ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。

頸損解体新書 中間報告会

日時 2020年 9月 19日 (土) 13:00 ~

会場 WEB セミナー (WEB 会議システム Zoom)

プログラム

前日 申し込みメールアドレスへ
ミーティング ID・パスワードを送付

12:30 受け付け開始

13:00 開会のあいさつ

プロジェクトの趣旨説明

概要と調査方法

単純集計結果

10年前、20年前との比較

見えてきた課題

質疑応答

14:50 閉会のあいさつ

定員 100名に達した時点で締め切ります

頸髄損傷者の自立生活と
社会参加に関する実態調査 2020
ホームページ

申し込みフォーム
<https://forms.gle/hmDnzSA4g5M93VGu9>

QRコード

主 催： 頸損解体新書 2020 実行委員会

問合せ： 全国頸髄損傷者連絡会

事務局 全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1
フローラ88 305B

特定非営利活動法人ぽしづる内

電話 079-555-6022

メール jaqoffice7@gmail.com

参加費
無料

報道・情報ピックアップ

朝日新聞 2020年6月30日(水)夕刊



西ノ平志子さん



脳性まひなどで手が不自由な人がギターを演奏できる補助装置を、三重大学大学院工学研究科の研究員、西ノ平志子さん(44)が開発した。「障害の有無にかかわらず、多くの人に楽器演奏の楽しさを味わってもらえたらい」と話す。

ギター弾きたい 装置でお手伝い

手が不自由な人を補助

三重大研究員「多くの人に楽しさを」

西ノ平さんは三重大学の学生時代、ロボット工学を専攻。課外活動では、大人数で編成するジャズのピッグバンドで、ピアノを担当していた。大学院修士課程を修了した後、音楽療法の勉強を始めた。

補助装置を開発しようと思

い立ったのは2015年。音楽療法のボランティアをして、アコースティックギターを持つ三重県亀山市の障害者デイサービスセンターに、アコースティックギターを持つのがきっかけだった。複数の利用者から「自分も弾いてみたい」と声をかけられた。そのうち1人は脳性まひで体に障害があったが、指先を動かしてマウスをクリックすることで演奏ができる。西ノ平



ギターを演奏するための補助装置に触れる伊藤靖幸さん=2017年、西ノ平志子さん提供

さんは「この要領で、弦を押さえられる方法はないか」と模索するようになった。デイサービスセンターの利用者や理学療法士の意見を参考にして、17年に装置の原型を完成させた。ギターのネックに取り付けた器具を手でスライドさせて鳴らす音を選んで、手を置いてマウスのようにクリックすると、機械が動作して6つある弦を同時にすべて押さえる仕組みだ。弦はもう片方の手ではなく、人前で演奏できるまで上達した人もいる。交通事故で頸椎を損傷した兵庫県三田市の伊藤靖幸さん(34)は、装置の効果を検証する際、被験者となつた。「趣味だったギターをまた弾いてみたい」という思いで、自ら協力を申し出

た。

18年12月、東京都で開かれ

ギター演奏の補助装置。クリックするように押すと作動する=津市の三重大学

（角拓哉）

兵庫頸損連絡会会員の伊藤靖幸さんが、ギター演奏に挑戦して新聞紹介されました
ギター演奏補助装置を使った演奏ですが、YES YOU CAN、念ずれば叶うですね

共同通信社 2020/7/3 08:42 (JST) 7/3 08:53 (JST) updated

多機能トイレに使用制限、神奈川 JR、運行時間内に10駅で施錠

神奈川県のJR線の10駅で、電車の運行時間内にもかかわらず、多機能トイレの使用を制限していることが3日、分かった。いずれも駅員が出入り口を施錠していた。東京五輪・パラリンピックを来年に控え、バリアフリー化は急務となっているが、JR東日本横浜支社は防犯上の理由などを強調。専門家は「公共交通機関なのに、使用できないのはおかしい」と批判する。

使用が制限されているのは根岸線で1駅、相模線で3駅、南武線で3駅、横須賀線で2駅、横浜線で1駅。それぞれ始発から午前6時半ごろまでや、午後9時や午後11時以降に使えない。支社によると、10駅とも駅員が不在の時間帯がある。

当会の加盟するDPI日本会議では、

上記報道内容は、障害者差別解消法の不当な差別的取扱いに当たると考え、
法の相談窓口である国土交通省の安心生活政策課に改善をお願いしました。
現在、報道のあった駅の多機能トイは施錠をしないことになったそうです。

共同通信 2020(令和2年)8月3日(水) 15:57 配信

東海道新幹線、車いす6席に 国交相「東京五輪までに導入」

赤羽一嘉国土交通相は3日、東海道新幹線の車いすスペースを、従来の1編成当たり1~2席から6席に増やす意向を表明した。障害者や子ども連れが対象の多目的室も含めると、1編成当たり計7人が車いすのまま利用できるようになる。スペースの広さやレイアウトを決め、来夏の東京五輪・パラリンピックまでの導入を目指す。

赤羽氏はこの日、JR東海の大井車両基地(東京都品川区)を訪れ、スペースを6席に増やした試験車両を視察した。

JR各社は、国交省が近く改正するバリアフリー基準に沿って、新車両の設計を進める。赤羽氏は「五輪までに新車両が世に出るようJRと協力したい」と話した。

京都新聞 2020年7月23日 18:41

「死ぬ権利より生きる権利を守る社会に」 ALS女性「安楽死」事件、 れいわ船後参院議員が見解

難病の筋萎縮性側索硬化症(ALS)を患うれいわ新選組の船後靖彦参院議員は23日、ALSを発症した京都市の女性から頼まれ、薬物を投与して殺害したとして医師2人が逮捕されたことを受けて、「事件の報道を見聞きし、驚いています」とする見解を自身のホームページに発表した。

見解では「インターネット上などで、『安楽死を法的に認めて欲しい』『苦しみながら生かされるのは本当につらいと思う』というような反応が出ていますが、人工呼吸器をつけ、ALSという進行性難病とともに生きている当事者の立場から、強い懸念を抱いております」とした。

さらに自身の経験を踏まえ、「患者同士が支えあうピアサポートなどを通じ、自分の経験が他の患者さんたちの役に立つことを知りました」とし、「『死ぬ権利』よりも、『生きる権利』を守る社会にしていくことが、何よりも大切です。どんなに障害が重くても、重篤な病でも、自らの人生を生きたいと思える社会をつくることが、ALSの国会議員としての私の使命と確信しています」と記した。

2020年7月30日

京都ALS女性殺害事件に対する声明

全国自立生活センター協議会
認定NPO法人DPI日本会議
NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会
NPO法人境を越えて
呼ネット(人工呼吸器ユーザー ネットワーク)
バクバクの会~人工呼吸器とともに生きる~
神経筋疾患ネットワーク
(順不同)

私たちは、どんなに重度な障害があっても地域で当たり前に生活し、障害のない人と同じ権利を持ち、地域の中で共にある社会の実現を目指して活動する障害当事者団体です。

京都市で昨年11月、筋萎縮性側索硬化症(ALS)で障害福祉サービスの重度訪問介護を利用し、24時間の介助体制で自立生活を送る林優里さん(当時51歳)を殺害したとして、元厚生労働省技官で医師の大久保愬一容疑者と、医師の山本直樹容疑者が逮捕されました。捜査関係者によると、林さんは以前から周囲に「安楽死させてほしい」と話しており、2人とは会員制交流サイト(SNS)を介して知り合い、直接の面識はなく、林さんからの依頼を受けて、昨年11月30日夕方、京都市にある林さんの自宅を訪れ、大量の薬物を投与し、殺害したとみられています。大久保容疑者は「高齢者は見るからにゾンビ」とネットに仮名で投稿し、高齢者への医療は社会資源の無駄、寝たきり高齢者はどこかに棄てるべきと優生思想的な主張を繰り返し、安楽死法制化にもたびたび言及していたのです。そして、どうう ALS という難病により常時介助を必要とする重度障害のある林さんの死に手を下しましたが、この行為にSNS上で多くの人が容認する意見を寄せていることは、すべての障害のある者にとって恐怖以外の何物でもありません。また報道では、「安楽死」という言葉がクローズアップされていますが、『この事件はネットを介した殺人に他なりません。』

また、今回の事件を受けて、「安楽死法」「尊厳死法」の議論を進めようと言った主張が持ち出されてきていますが、安楽死・尊厳死の合法化などもってのほかです。生きているのが辛いから自ら死を選ぶという意味では、尊厳死も安楽死も自殺と一緒にではないでしょうか。自殺対策大綱で「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」と掲げ、国をあげて自殺率を減らそうとしている一方で、尊厳死や安楽死を法制化しようというのは矛盾以外の何者でもありません。自殺者としてカウントしなければ良いという問題ではないと考えます。

被害者の林さんは24時間介護サービスを受けていて、地域生活・自立生活が保障されていても、このような殺人事件が起きてしまいました。そして、SNSを通して多くの人が、安楽死を強く望んだ林さんに同情と賛同を寄せていることの根底には、「生産性のない重度障害者は生きる価値がない」という誤った論調があります。

そもそも人は本来生きていることそれ自体で認められるべきなのです。怖いのはいつも命に対して少数派が除外され、多数派の価値で測られ、それが全てであるかのように扱われることです。

私たちは、被害者の林さんがどのような悲しみを抱えていたか、介護現場が抱えていた課題は何なのかを検証することを求めます。そして、障害を理由に「安楽死させてほしい」と思わなくともよい社会の構築を訴えます。

私たちは、これからも社会的サポートが必要な人でも一人の人間として尊重され、「生きる権利」が大切にされる社会、「生きる」選択が妨げられることなく、だれもが自分らしく最後まで生きたいと思え、それが当たり前に叶う社会の在り方を強く訴え続けていきます。



特定非営利活動法人 *DPI* (障害者インターナショナル) 日本会議

Japan National Assembly of Disabled Peoples' International (DPI-JAPAN)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-8 武蔵野ビル5階

Tel: (03) 5282-3730 Fax: (03) 5282-0017

e-mail: office@dpi-japan.org

URL: http://www.dpi-japan.org

特別非営利活動法人 DPI 日本会議

議長 平野みどり

財政支援のお願い

日頃はDPIの活動にご支援いただきありがとうございます。

DPIは慢性的な財政不足に苦しんでおります。2014年度～2019年度の6年間のうち4回も赤字でした。DPIは職員の給料も非常に低く、活動費用もこれ以上削れないというくらい削り、もはや削るところがありませんが、それでも赤字になってしまいます。

障害者が地域で自立した生活を送り、インクルーシブで、障害者の権利を保障される社会を創るために、地域での直接支援と、国への働きかけの両方が不可欠です。DPIは中央省庁や国会議員へ働きかけて、障害者の制度・政策を向上させることができが大きな役割です。故三澤了議長ら先輩方の長年に渡る活動のおかげで、いまでは国の検討会にも参加でき、与野党の国会議員とも良好な関係を築き、政策実現への力をつけてきました。

国に対して継続した働きかけをするDPIの活動は、日本の障害者運動には無くてはならないものです。絶対に潰してはなりません。しかし、DPIは活動の内容から、収益事業に取り組むことが難しく、財政を安定させることができます。ぜひとも、DPIを支えていただきますよう心からお願い申し上げます。

記

ぜひともDPI日本会議へのご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

DPI日本会議は、2007年3月より認定NPO法人に認定されています。ご寄付をいただいた場合、確定申告の際に所定の手続きをされることで寄付金控除等の対象となります。

- ※ 法人が認定NPO法人に対して支出した寄付金は、一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、当該損金算入限度額の範囲内で損金算入することができます。すなわち、最大で通常の2倍の寄付が損金算入できることとなり、この分には法人税が課税されません。
- ※ 損金算入できる金額の合計は、特定公益増進法人に対する寄付金と合わせて行うことになりますので、ご注意ください。

特例措置を受けるための手続

寄付をした日を含む事業年度の確定申告書提出の際、確定申告書に損金算入限度超過額の計算上、寄付金の額の合計額に算入されない金額(認定NPO法人に対する寄付金を含む)を記載し、認定NPO法人に対する寄付金の明細書を添付します。

- ※ 寄付先の認定NPO法人が発行する所要事項の記載された「領収書」を保存しておく必要があります。

■ ご寄付お振込先

郵便振替の場合 口座番号: 00110-2-47127 口座名: DPI 日本会議

※郵便局備え付けの青色郵便振替用紙をご利用いただけます。

※郵便口座をお持ちの方は電子振替をご利用いただけます。

銀行振込の場合 金融機関・支店: みずほ銀行 神田支店

預金種類: 普通 口座番号: 1979083 口座名: 特定非営利活動法人ディーピーアイ日本会議

追悼 菊地敏明編集長を偲んで

菊地さんとの思い出

全国頸髄損傷者連絡会 前会長

兵庫頸髄損傷者連絡会 会長 三戸呂克美

菊地さんの出会いはかれこれ30年ぐらい前になるだろうか、頸損連絡会が全国組織として活動していく足掛かりを作るための会合が東京であった。三澤さん、小野さんなど今はいない頸損連の創世期の顔ぶれが集まり、その中に菊地さんもいた。菊地さんは当時、移動には車を使っており、自分で運転していました。今でこそ頸損で車に乗り移動している人はよく見かけるが、当時はそんなに多くはなかった。僕は菊地さん運転の車に乗せてもらい都心を走ったことをよく覚えている。当時は窓を開けたらなびく髪をお互い持っていた。気持ちの良いドライブだったとつい昨日のことのように思い出す。



在りし日の菊地さん

それ以後、菊地さんは本部役員として一緒に行動することになる。会えばいつも笑顔で話しかけてくれる菊地さんにファンは多かった。それは、「菊地さんに頼まれれば嫌と言えないよ」と言って、引き受ける人が多かったことからもうかがい知ることができる。僕とは年齢も大きく違わないのに、いろいろ教えてもらうことがあった。もう気楽に教えてもらえないと思うと本当に寂しい。

人一倍責任感が強く、体調がすぐれないときもヘルパーさんを代理にして全国大会に参加されていた。そんな菊地さんにもう会えないのですね。残念でなりません。

心よりご冥福をお祈りいたします。

菊地さん、ありがとうございました

全国頸髄損傷者連絡会 副会長 八幡孝雄

菊地さんが逝去される数日前、コロナ騒ぎの影響で、インターネットでの編集会議をしました。ずばらん私と違い、はじめて几帳面な菊地さんは、きちんと段取りを決めて会議を終えたのですが、まさかその数日後に突然の訃報を聞くとは想像もできませんでした。

頸損者のことをいつも思い、自分も大変な生活を送っているにも関わらず、困っている頸損者、支部活動の支援に真摯に取り組んでおられる姿は、頭が下がるばかりでした。また高齢のお母さんと同居している時も、お母さんに寄り添い面倒を見ている姿は感動でした。

私は菊地さんや、亡き三澤さん、小野さん、闘病中の今西さんに、叱られながら今に至っています。菊地さんとは議論が白熱することがよくあり、人間的に成長させて頂きました。

共に当事者運動に関わって、とても有意義でした、本当にありがとうございました。合掌

菊地さんを偲んで

「福島頸損友の会」代表 相山敏子

私が初めて菊地さんの存在の偉大さに気付いたのは、出会って間もなくの頃、2008年7月19日に全国の仲間たちが援軍となって私の地元で開催してくれたシンポジウム「重度障害者の自立・地域で生きる」の時でした。

全国から選りすぐりの強者たちが集まってくれて、本当に圧倒されるばかりの会場の一番後ろに、静かに全体を見守っているような重鎮のような方がいて、全く目立たないのですが常に存在を感じさせる、それが菊地さんだったのです。

その場で、たった6人のメンバーだけで「福島頸損友の会」は発足したのですが、今にも消えてしまいそうな私たちにいつも寄り添ってくれて、全国の仲間たちと繋げてくれて、今思えば菊地さんは私たちの育ての親のような存在でした。菊地さんが積み重ねてくれた「合同交流会」は私たち福島の仲間たちにとって唯一の出会いの場となっています。どのような形であっても、みんなの力を借りて繋げていきたい、そう願わずにはいられません。

感謝の思いは尽きないので、頸損歴35年過ぎてしまったことを嘆いていた私に「私は50年過ぎましたよ」と穏やかな笑顔で応えてくれたのがつい昨日のことのように思い出されます。

その笑顔の奥に想像もできない強さ、厳しさを感じました。どんな時でも向き合ってくれる、必ず言葉を返してくれる、そこにいるだけで誰もが安心する、菊地さんのような人になりたいと私は今でも思っています。

菊地さんと出会えて

全国頸髄損傷者連絡会 会長

東京頸髄損傷者連絡会 会長 鴨治 慎吾

私が菊地さんと出会ったのは、確かまだ入院中のときに外出許可がでて、東京頸損連絡会の勉強会が初めてだったと記憶しています。第一印象は、温和で社交的で誰からも好かれる方だなと感じました。菊地さんとは、いろいろなイベント・行事等で仲良くしていただきました。

菊地さんと私の思い出話です。一人暮らしを始めたばかりの頃のお花見会で、二人とも酔いつぶれ、新宿御苑の芝生の上で、電動車椅子二人で1時間以上リクリエーションしたまで過ごした事。受傷時のエピソードで、プールの飛び込みで体が動かなくなり、軽トラの荷台に乗せられ、自宅に帰宅してから病院に行った話やアパートの二階に住んでいた時に、毎日介助者におんぶされ、一階に降りて自分で運転して車で職場に向かう話など、気兼ねなく話してくれた事。各地に会議に行った時には、ほとんど同じホテルに宿泊し、おいしい食事をご一緒させてもらった事など、語り切れないくらいあります。

また、いろいろな場面で私に初対面の方を紹介してもらい、人と人を繋いでもらいました。それは、私の財産となりました。その他にも、「人」として「頸損」として、大変勉強させてもらいました。私は、菊地さんにはなれませんが、菊地さんを見習って、人ととの橋渡しをしていければと思います。今まで、おつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

全国頸髄損傷者連絡会＆関係団体年間予定

(2020年8月～2021年7月)

全国頸髄損傷者連絡会事務局

あくまでも現時点での年間予定です。新型コロナウイルス感染の影響により延期もしくは中止になる可能性があります。詳しくは主催者にご確認ください。

[2020]

9月13日（日）	全国頸髄損傷者連絡会 秋の代表者会議（オンライン）
9月19日（土）	頸損解体新書2020 中間報告会（オンライン）
10月3日（土）	香川支部・BBQ（香川県）
10月10日（土）	2020アクセス関西ネットワーク集会in神戸（神戸市勤労会館）
10月18日（日）	京都・大阪合同企画「伊丹の酒蔵巡り」
10月	国立リハセンター並木祭・ブース出展（埼玉県所沢市）
10月	4都県合同交流会（福島県郡山市）
11月8日（日）	四国頸損の集い（愛媛県四国中央市）
11月15日（日）	大阪支部・身体ケア学習会（大阪府）
11月19～21日（木～土）	第22回 西日本国際福祉機器展（北九州市・西日本総合展示場）
11月21～22日（土～日）	DPI障害者政策討論集会（東京都・新宿区戸山サンライズ）
12月1～4日（火～金）	シーズ・ニーズマッチング交流会2020（オンライン）
12月13日（日）	障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議セミナー (大阪市・たかつガーデン)

[2021]

1月11日（月）	香川支部・新年会（香川県）
1月24日（日）	大阪支部・新年会（大阪府）
2月9～10日（火～水）	シーズ・ニーズマッチング交流会2020（東京都・TOKYO有明）
2月	第13回バリアフリー推進四国地域連絡会議（香川県）
3月28日（日）	大阪支部・春のレクリエーション（大阪府）
4月22～24日（木～土）	バリアフリー2021総合福祉展（大阪府・インテックス大阪）
5月29～30日（土～日）	DPI日本会議全国集会in三重（三重県）
6月5～6日（土～日）	第48回全国頸髄損傷者連絡会総会・京都大会（京都府）

※ 予定日時・場所は変更になる場合がありますのでご了承ください

※ 全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月（年3回）

※ お問い合わせは該当各支部窓口、又は下記本部事務局まで

全国頸髄損傷者連絡会事務局

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1

フローラ88 305B 特定非営利活動法人ぽしづる内

TEL:079-555-6022 Email:jaqoffice7@gmail.com

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2020年8月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしふる内

TEL 079-555-6022 e-mail:jaqoffice7@gmail.com <http://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号:00110-0-62671 口座名義:全国頸髄損傷者連絡会

※ 各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせください。

※ 電話でのお問い合わせ等は、平日 10時~17時の間にお願いいたします。

福島地区窓口 「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前146-1(相山方)

TEL 080-1656-1727 e-mail:hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail:keison@plum.plala.or.jp <http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション 205

TEL 090-8567-5150 e-mail:tokyokeisonn@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html>

神奈川頸髄損傷者連絡会

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台696-1 ライム106号室(星野方)

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp <http://www.k-sonet.jp/>

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡1-3-27 NPO法人障害者生活支援センターおのころ島気付

TEL 054-641-7001 FAX 054-641-7181 e-mail:matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀1F AJU自立生活情報センター内

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャパン702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail:kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟313 村田方

TEL 090-8886-9377 e-mail:keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターあるる内

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail:okeison@yahoo.co.jp <http://rsakurai.hp.infoseek.co.jp/oaq/>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしふる内

TEL 079-555-6229 FAX 079-553-6401 e-mail:hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

〒768-0104 香川県三豊市山本町神田 1223(長谷川方)

TEL 0875-63-3281 e-Mail:tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田 336-2(山下方)

TEL 0896-25-1290 e-mail:ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻 28 番地(江川方)

TEL 0884-21-1604 e-mail:awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0942 大分県別府市千代町 13-14 ユニバーサルマンション 2階 NPO 法人自立支援センターおおいた内

TEL 0977-27-5508 FAX 0977-24-4924 e-mail:kkr@jp700.com

編集部通信

●(新) 「頸損」編集部連絡先・・・連絡先が新しくなりました

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション205 鴨治 慎吾

TEL : 090-2724-5574 E-mail : [singok@lime.ocn.ne.jp](mailto:singo-k@lime.ocn.ne.jp)

※ 頸髄損傷者に役立つ情報を探しております、何かありましたら気軽にご連絡ください

●全国頸損連絡会 振込口座 ※ 当会では善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座： 00110-0-62671 全国頸髄損傷者連絡会

◆機関誌広告募集 「頸損」発行は年3回（4月・8月・12月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約500名）及び関係する方々に購読していただいている。

当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方も募集しております。

当会HP <http://k-son.net/> をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

[広告掲載要綱]

◎料金：1ページ・2万円／半ページ・1万円（※ 1年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記連絡先（編集部・鴨治）、または本部事務局までお願いいたします。

編集後記

五月の末、「頸損」編集長である菊地敏明さんがお亡くなりになりました。

外出中に転倒しているところを発見され、救急搬送されたそうなのですが、詳しい原因は分からなかったそうです。ここよりご冥福をお祈り致します。

未だ、全世界で新型コロナウイルスが蔓延しています。呼吸器系の弱い頸損にとっては、脅威です。

今のところ、会員さんで感染した方の情報は、入ってきてません。

早く、ワクチン等の治療薬ができ、脅威でなくなることを願っています。

皆様も、気を付けてお過ごし下さい。

K.S

昭和四十六年八月七日第二種郵便物認可（毎月六回一・六の日発行）
二〇二〇年六月十七日発行 SSKA頸損 増刊通巻第一〇二七一号

編集人

東京都練馬区石神井町
七一一一一一〇五
全国頸髄損傷者連絡会
鴨治慎吾

発行人

東京都世田谷区祖師谷三十一十七
ヴエルドウーラ祖師谷一〇二号室
障害者団体定期刊行物協会

全国頸髄損傷者連絡会

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1
フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしづる内
TEL : 079-555-6022 Email : jaqoffice7@gmail.com

額価 250円

※ 無断転載・複製を禁じます